

愛知県立芸術大学
「病院アウトリーチプロジェクト」
2023 年度報告書



2024 年 3 月

愛知県立芸術大学「病院アウトリーチプロジェクト」委員会

目次

ごあいさつ	安原雅之 3
「病院アウトリーチプロジェクト」について	安原雅之 4
プロジェクト実施体制・協力組織	畑陽子 5
ご寄付・助成金	安原雅之 6
2023 年度事業報告	7
1. 2023 年度の「病院アウトリーチプロジェクト」	七條めぐみ..... 7
2. 2023 年度アウトリーチ実施一覧	畑陽子..... 9
3. 2023 年度 授業概要	七條めぐみ・畑陽子.....11
4. 東部保育園へのアウトリーチ実施	倉橋祐佳里 ... 18
5. 北保育園へのアウトリーチ実施	中村由加里 ... 20
6. 藤田医科大学病院へのアウトリーチ実施	安原雅之・七條めぐみ・犬飼裕哉 ... 24
7. 豊田西病院へのアウトリーチ実施	石川貴憲 ... 29
8. アール・ブリュット	安原雅之・石川貴憲・倉橋祐佳里 ... 32
振り返り	37
1. 「病院アウトリーチプロジェクト」7 年度目の振り返り	三木隆二郎 37
2. メンターとしての振り返り	中村由加里・石川貴憲・犬飼裕哉・倉橋祐佳里 ... 39
3. 受講生の振り返り	42
English Abstract	48
1. Artistic Outreach in Hospitals Project	48
2. Project Implementation Structure and Cooperative Organizations	49
3. Donations / Grants.....	50
4. Artistic Outreach in Hospitals Project in AY 2023.....	51
5. List of Artistic Outreach Activities in AY 2023.....	54

※本報告書に掲載した写真、新聞記事については、実施先の施設および新聞社より掲載の許諾を
いただいております。

ごあいさつ

プロジェクト代表 音楽学部教授 安原雅之

愛知県立芸術大学「病院アウトリーチプロジェクト」の2023年度の報告書をお届けします。このプロジェクトは本学の学長特別研究費を得て「試行」という形で2017年度からスタートしたのですが、現在は大学の事業のひとつとして、さらに発展した形で実施されています。

今回の報告書は、2023年度に実施された「病院アウトリーチプロジェクト」の概要を取りまとめています。2023年5月に新型コロナウイルスが「5類感染症」に移行したことから、日常生活におけるさまざまなことがコロナ禍前の状態に戻ってきているように思います。長らく休止していた藤田医科大学病院でのコンサートも2023年12月に再開し、院内の新施設「フジタモール」横のイベントスペースでコンサートが行われました。

資金面では、東海メディカルプロダクツ会長・筒井宣政様と副会長・筒井陽子様ご夫妻からのご寄付に加え、愛知銀行の愛銀教育文化財団さまより令和5年度助成金をいただきました。愛銀教育文化財団は、地域の教育、文化の振興のために助成活動をご支援いただいております。今回は、一般助成の「団体」の10団体に、愛知県立芸術大学「病院アウトリーチプロジェクト」委員会を取り上げていただきました。

みなさまからのご支援は、プロジェクトの大きな支えになっています。心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

本学の「病院アウトリーチプロジェクト」は、教育面や芸術面で成果を挙げるだけでなく、地域貢献にも役立っています。コロナ禍での活動経験を活かし、来年度もさまざまな「場」での色々な形態による実践にチャレンジする予定です。

このプロジェクトに対して今後ともみなさまのご支援をいただきたく、よろしくお願いいたします。

「病院アウトリーチプロジェクト」について

代表 安原雅之

このプロジェクトは、芸術を必要としていながらホールや美術館に足を運ぶことが困難な方たちの元へ、芸術家が出向いてアートを届けるアウトリーチ活動のうち、届け先を病院や福祉施設に絞って実践するもので、本学の大学院在学学生を対象に、病院等における良質な芸術活動に関わるアーティストを育成します。

そのために 2017 年度、大学院音楽研究科「アート・マネジメント」の授業を拡充し（美術研究科は「プロジェクト研究」として開講）、新たに病院等における芸術活動に特化した講座を開設しました。受講生は、前期は子供向け、後期は病院や福祉施設に特化したアウトリーチに関して理論と実習を通じてノウハウを学ぶことにより、「自ら企画し、実施できる」スキルを身に付けます。

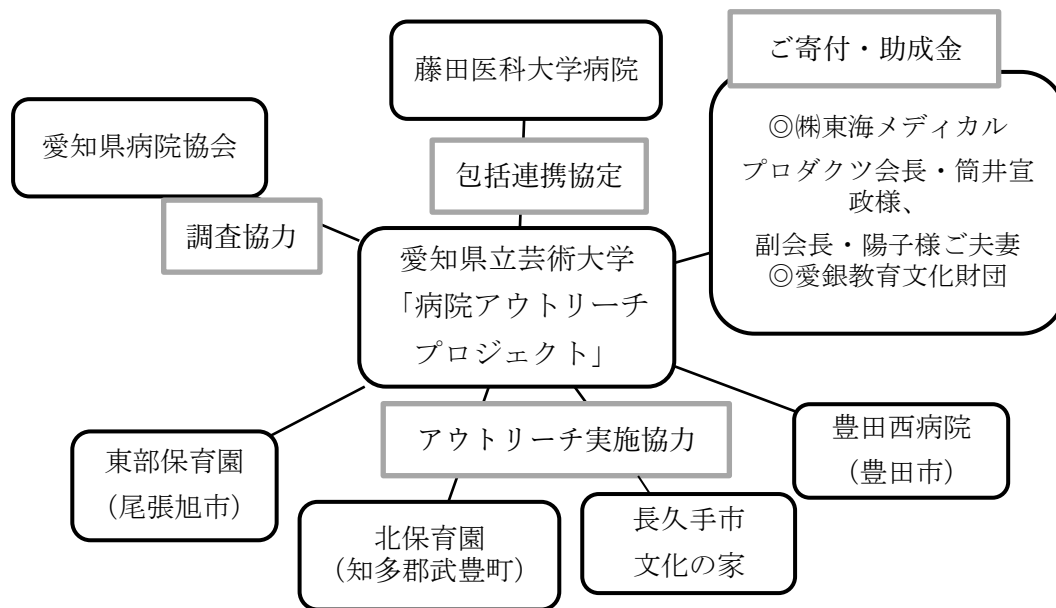
その場に集う人に心の癒しを与え、病院や福祉施設にとっては環境の向上になり、芸術家にとっては社会経験の場となり、本学にとっては地域貢献と卒業生のキャリア育成支援となります。

医療や福祉の現場における芸術活動は、必要性は認識されながらもいまだにノウハウが確立していませんが、本学でそれに関わる芸術家が育成されることにより、愛知県はもとより、日本全体にとって大きな成果が生まれることが期待されます。

プロジェクト実施体制・協力組織

畑陽子

このプロジェクトは、アウトリーチを行うアーティストの育成、医療機関をはじめとした実施先における芸術活動に関する調査・研究を行うとともに、芸術による地域貢献も射程に入れた活動です。プロジェクトの実施にあたっては、昨年度に引き続き、藤田医科大学病院、株式会社東海メディカルプロダクツ会長・筒井宣政様、副会長・陽子様ご夫妻、愛銀教育文化財団、長久手市文化の家をはじめ、地域の医療機関、福祉施設、文化施設等から多大なご支援・協力をいただきました。以下に、簡潔にその体制を示します。



2023年度プロジェクトメンバー

代表 安原雅之（本学教授・音楽学）

副代表 佐藤直樹（本学教授・デザイン）

スーパーバイザー 三木隆二郎（本学非常勤講師・アートマネジメント実務）

オブザーバー 井上さつき（本学名誉教授・音楽学）

アドバイザー 村瀬香（本学非常勤講師・音楽療法）

コーディネーター 中村由加里（本学卒業生・クラリネット奏者）、石川貴憲（本学卒業生・サクソフォン奏者）、犬飼裕哉（本学卒業生・ピアノ奏者）、倉橋祐佳里（本学卒業生・ピアノ奏者）

事務局長 七條めぐみ（本学専任講師・音楽学）

事務局 畑陽子（本学卒業生・音楽学）

ご寄付・助成金

安原雅之

愛知県立芸術大学「病院アウトリーチプロジェクト」は、株式会社東海メディカルプロダクツ会長・筒井宣政様、副会長・陽子様ご夫妻より、2017 年度に 500 万円のご寄付を頂戴しました。ここに厚く御礼申し上げます。

この資金は例年、院内コンサートをはじめとするアウトリーチ活動の演奏者謝金・交通費、楽器・機材運搬費、チラシ等の作成費などの運営費に活用させていただいています。

副会長の筒井陽子様からは、長い入院生活を送られた次女、佳美様に付き添っていらしたご経験から、病院アウトリーチは立派なコンサートを開くことが重要なのではなく、必要とされる方にどこまで寄り添った演奏ができるかが大事であるという貴重なご助言をいただきました。

このご助言を受け、本プロジェクトでは「聴き手に寄り添う」という姿勢を重視したアウトリーチを行ってまいりました。対面での活動が制限されていたコロナ禍を経て、2023 年度には合計 4 か所の病院・保育施設でコンサートを実施することができました。これらのアウトリーチ活動等を通じて、学生たちの中には、演奏曲目や話し方を工夫する姿勢が確かに根付いてきています。

また、2023 年度には公益財団法人愛銀教育文化財団様より、令和 5 年度（第 34 回）助成金（一般助成・団体の部）に採択していただき、40 万円の助成金を頂戴しました。ここに厚く御礼申し上げます。

この資金は、今年度のアウトリーチ活動のうち、藤田医科大学病院および、豊田西病院でのコンサートの演奏者謝金・交通費として活用させていただきました。

1. 2023 年度の「病院アウトリーチプロジェクト」

七條めぐみ

「病院アウトリーチプロジェクト」は 2023 年度に 7 年度目を迎えた。今年度は、藤田医科大学病院、豊田西病院で対面によるアウトリーチ公演を行うことができたほか、年度の前期には 2 か所の保育園でも実践を行った。2023 年 5 月に新型コロナウイルス感染症が「5 類感染症」に移行されたことで、医療機関への人の出入りが緩和され、対面でのアウトリーチが再開しつつある。それも、コロナ前と同じ状態に戻すのではなく、演奏者と対象者との適切な距離を保ったり、換気を心掛けたりと、感染対策した上での実践となった。このような形が「あたりまえ」となったのは、コロナ禍を経て手洗い等の感染対策が浸透したのと同じように、アウトリーチにおいても対象者に安心して楽しんでもらうための配慮が身についた結果といえる。

2023 年度の前期には、これまで継続して実践を行っていた尾張旭市立東部保育園に加えて、武豊町立北保育園でもアウトリーチ公演を行った。前期には 10 名の受講生による 5 つのチームを作り、東部保育園に 2 チーム、北保育園に 3 チームが伺った。東部保育園でのアウトリーチは初年度から数えて 7 年度目となる。東部保育園へは、これまでに築いた関係性を生かし、トロンボーンとピアノ、ピアノ 2 台（うち 1 台は電子ピアノ）という珍しい編成のチームが伺い、内容もクラシックや童謡に限らず、詳しい楽器紹介やジャズを盛り込んだプログラムを準備した。計画段階では、どうしたら保育園児に伝わるか、2 台ピアノをどう配置するかなどの検討を重ね、結果として受講生の専門性を生かしたアウトリーチを実施することができたと感じている。一方で、北保育園は、筆者の息子が通っている保育園であり、園長先生が本プロジェクトに興味を持ってくださったことからアウトリーチが実現した。プロジェクトとして初めて伺う実践先であるため、あらかじめ受講生とスタッフが保育園を訪問し、企画のプレゼンテーションを行い、それに対するフィードバックをいただいた。本プロジェクトでは「シェアド・ゴール Shared goal」¹を重視していることから、受講生から普段の園児の様子について伺ったり、保育園側には園児が公演を楽しみにできるような工夫をしていただいたりと、双方で協力しながら準備を進めた。そのおかげもあり、保育園児にとって良い刺激となるようなアウトリーチを実施できたと言える。

¹ 共通目標。アウトリーチの演者と訪問先が共通して抱くことのできる目標を指し、アウトリーチを通じて何を実現したいのかを言語化したものである。本プロジェクトの先駆的存在である、アメリカのカーティス音楽院が提唱している。

2023 年度の後期には、藤田医科大学病院および、豊田西病院での実践を行った。後期は 11 名の受講生による 5 つのチームを作り、藤田医科大学病院に 4 チーム、豊田西病院に 2 チームが伺った²。藤田医科大学病院では、新型コロナのため 2019 年 12 月を最後に対面での公演は実施できず、近年は動画の提供のみを行っていた。今年度になり、どのようなアウトリーチが可能かを議論した結果、新設された「フジタモール」横のイベントスペースにて、3 日間で 4 回のアウトリーチ公演を行うことができた。4 公演のうち最後の日程では、本学美術学部デザイン専攻の佐藤教授とのコラボレーションにより、公演を視覚的にも楽しんでいただけるようなプログラムを作成した。また、4 公演を通じてポスターの掲示、新聞広告での告知、アンケートの実施など、アウトリーチの実務面で藤田医科大学および病院からのサポートをいただき、約 4 年ぶりとなる対面での公演を実施することができた。

豊田西病院では、昨年度に引き続き 12 月にアウトリーチを行った。全 2 回のうち、片方の日程では本番直前に出演者の一人が体調を崩したため、当初予定していたプログラムを実施できなくなってしまった。その後、1 月に全員そろっての「リベンジ公演」の機会を設けていただき、予定していた曲目、さらには 12 月の公演時にリクエストしていただいた曲目を盛り込んだプログラムをお届けした。この回の冒頭では、豊田西病院で働く作業療法士さんによる歌のコーナーが設けられ、それが演奏者と参加者のアイスブレイクとなるだけでなく、公演全体の「エントリー・ポイント」³としても機能した。そのおかげもあり、受講生はリラックスした状態で演奏に臨むことができた。また、現場の職員さんと受講生とのコミュニケーションも回を追うごとに深まり、より良いアウトリーチを実現するための体制が整ってきたといえる。

このような充実した実践状況の一方で、今年度は本プロジェクトの予算面で苦難が続いた。まず、大学全体で予算が削減されており、従来通りの規模でアウトリーチを行うことが難しくなっている。アウトリーチの質を担保するための指導者謝金を削減することはできないため、結果的にゲスト講師をお呼びすることが減った。それにより、目の前のアウトリーチに注力することはできたかも知れないが、受講生に幅広い気付きや知見を提供する機会を減らしてしまったことは否めない。また、外部資金の獲得も厳しい状況である。今年度は愛銀教育文化財団より助成金をいただくことができたが、プロジェクトの継続的な運営という点では不足している。今後もプロジェクトを持続可能なものとするために、学内外での予算獲得に努めなければならない。

² 5 チームのうち、1 チームのみ両病院にて公演を行った。

³ アウトリーチにおいて、対象者の関心を演者に惹きつける手段のこと。

2023 年度事業報告

2. 2023 年度アウトリーチ実施一覧

畑陽子

(1) 2023 年度アウトリーチ実践一覧

通算公演回数	実施日	会場名 企画名（ねらい）	対象者 出演者	公演時間 (分)	参加者 (人)	スタッフ (人) 〔注1〕
1	6月26日	東部保育園（尾張旭市）	園児、保育士	15	約100	2
2		それぞれの楽器の鳴る仕組みを知ってもらう	秋口響哉（トロンボーン、トランペット）、 工藤まどか（ピアノ）	15		
3				15		
4				15		
5	6月26日	北保育園（知多郡武豊町）	園児、保育士	20	約80	2
6		表現方法の中に「音楽で表現する」方法があることを知ってもらい、子どもたちの表現方法の選択肢を広げる	永田佳暖（ソプラノ）、加藤愛梨（ピアノ）	20		
7				20		
8	6月28日	北保育園（知多郡武豊町）	園児、保育士	20	約100	2
9		おはなしや自分の気持ちを思い浮かべながら音楽を聴いてもらう	猪子奈津子（ヴァイオリン）、角美吹（ピアノ）	20		
10				20		
11				20		
12	7月6日	東部保育園（尾張旭市）	園児、保育士	15	約100	2
13		自由に音楽を楽しもう（音楽を全身で感じる、音楽に合わせて体を動かしたくなる）	三島加蓮（ピアノ）、桑野友里（ピアノ）	15		
14				15		
15				15		
16	7月13日	北保育園（知多郡武豊町）	園児、保育士	20	約110	2
17		音楽と動きを一緒に楽しんでもらう	光行彩香（ピアノ）、安達莉子（ピアノ）	20		
18				20		
19				20		
20	12月9日	藤田医科大学病院（豊明市） 「気持ちのリフレッシュ」私たちのエネルギーギッシュな演奏で、今日1日、少しでも楽しい気分になってもらう	患者、病院スタッフ 桑野友里（ピアノ）、三島加蓮（ピアノ）	50	約40	2
21	12月12日	豊田西病院（豊田市） 音楽を通して、対象者にほっこりする時間を提供する	患者、病院スタッフ 白金宙河（バリトン）、足立真由（ピアノ）	30	約40	2
22	12月13日	豊田西病院（豊田市） ユーフォニアムとピアノの魅力を伝え、音楽の楽しさを共有する	患者、病院スタッフ 小谷由里香（ユーフォニアム）、加藤愛梨（ピアノ）	30	約40	2
23	1月13日	藤田医科大学病院（豊明市） 「HOT」をキーワードに、コンサートを通して「ホッとする」、「心温まる」、「熱い気持ちになる」気分を味わってもらう	患者、病院スタッフ 猪子奈津子（ヴァイオリン）、角美吹（ピアノ）	45	約40	3
24		音楽を通して、対象者に癒しや楽しさを伝える	白金宙河（声楽）、永田佳暖（声楽）、足立真由（ピアノ）	40	約40	3
25	1月16日	豊田西病院（豊田市） 音楽を通して、対象者にほっこりする時間を提供する	患者、病院スタッフ 白金宙河（声楽）、永田佳暖（声楽）、足立真由（ピアノ）	60	約40	1
26	1月27日	藤田医科大学病院（豊明市） 音楽で巡るヨーロッパ旅行というテーマで、旅行に行った時のようなワクワクした気分や感動する時間を過ごしてもらう	患者、病院スタッフ 安達莉子（ピアノ）、秋口響哉（トロンボーン）、高橋喜仁（トロンボーン）	40	約40	1
合計					約660	

※2024 年 2 月 29 日現在

〔注 1〕 スタッフの人数は「病院アウトリーチプロジェクト」関係者のみ計上し、実践先の施設関係者は含まれない。

2023 年 5 月に新型コロナウイルス感染症が「5 類感染症」に移行されたことで、医療機関への人の出入りが緩和され、対面でのアウトリーチが再開した。前年度まで、対面でのアウトリーチの実施ができない間は動画を病院へ届ける活動を行っていた。それらの動画のうち、公開されているものは本プロジェクトの YouTube チャンネルで視聴することができる。

チャンネル URL

： <https://www.youtube.com/channel/UC-6n63JaJX6zHABOWVqifcA>

QR コード：



3. 授業概要

七條めぐみ・畑陽子

2023 年度の「アート・マネジメント 1/2」では、前期に尾張旭市立東部保育園と武豊町立北保育園、後期に藤田医科大学病院と豊田西病院でのアウトリーチを実践した。授業では本プロジェクトスーパーバイザーの三木隆二郎による講義を行い、アウトリーチに必要な心構えや社会保障に関する知識、医療・福祉分野の現状などを学習した。また、美術分野との連携として、本プロジェクト副代表の佐藤直樹教授（デザイン）、および佐藤文子准教授（陶磁）によるレクチャーを行い、芸術家と社会の関わりについての知見を広めた。実践に向けては、メンター（本プロジェクト・コーディネーター）がそれぞれ 1~2 チームを受け持ち、プログラム作りとランスルー（通しリハーサル）を行った。さらに、保育園・病院の下見に伺ったり、担当者から施設やアウトリーチ対象者に関する説明を受けたりして、対象者への理解に努めた。

本稿では、今年度の授業内容一覧を掲載し、授業担当者、スーパーバイザーおよびゲスト講師によるレクチャーの内容をまとめる。

授業担当：安原雅之、佐藤直樹、七條めぐみ

講義担当：三木隆二郎

メンター：中村由加里、石川貴憲、犬飼裕哉、倉橋祐佳里

サポート：畑陽子

受講生内訳：

【前期】声楽 1 名、ピアノ 7 名、弦楽器 1 名¹、管楽器 1 名

【後期】声楽 2 名、ピアノ 6 名、弦楽器 1 名、管楽器 2 名

¹ 授業の履修生ではないが、本学研究生が聴講生として実践に参加した。後期も同様である。

前期の授業内容と講師

	日付	講座名・講師名・内容
第1回	4月12日	ガイダンス
第2回	4月19日	「プロジェクトの活動紹介」七條めぐみ（本学音楽学部講師、本プロジェクト事務局長）、メンターと受講生の面談、実践のチーム分け
第3回	4月26日	「芸術アウトリーチことはじめ」三木隆二郎（本プロジェクト・スーパーバイザー）、実践事例紹介
第4回	5月10日	「アウトリーチ・コンサートの制作」三木隆二郎、企画作り
第5回	5月17日	企画作り
第6回	5月24日	「障害者芸術活動支援事業について」佐藤文子先生（本学美術学部准教授／陶磁）、企画作り
第7回	5月31日	「デザインとは何か」佐藤直樹（本学美術学部教授／デザイン）、保育園でのアウトリーチに向けて企画会議
第8回	6月7日	企画作り
第9回	6月14日	「保育園アウトリーチ入門」三木隆二郎、北保育園でのアウトリーチ（6月28日実施）のランスルー
第10回	6月21日	東部保育園でのアウトリーチ（6月26日実施）、北保育園でのアウトリーチ（6月26日実施）のランスルー、企画プレゼン ゲスト：生田創さん（長久手市文化の家館長）
第11回	6月28日	東部保育園でのアウトリーチ（7月6日実施）、北保育園でのアウトリーチ（7月13日）のランスルー
第12回	7月5日	「藤田医科大学について」石原慎先生（藤田医科大学医学部教授）、東部保育園でのアウトリーチ（6月26日実施）、北保育園でのアウトリーチ（6月26日、6月28日実施）の振り返り
第13回	7月12日	東部保育園でのアウトリーチ（7月6日実施）の振り返り
第14回	7月19日	北保育園でのアウトリーチ（7月13日）の振り返り、前期のまとめ

後期の授業内容と講師

	日付	講座名・講師名・内容
第1回	9月27日	ガイダンス、メンターと受講生の面談、実践のチーム分け
第2回	10月4日	「あなたは社会保障のことをどのくらい知っていますか？」、「病院や福祉施設でアウトリーチを初めて行う際の留意点」三木隆二郎
第3回	10月11日	「『感情推定』について」神谷幸宏先生（愛知県立大学情報科学部准教授）
第4回	10月18日	病院での実践事例紹介、企画作り
第5回	10月25日	企画作り
第6回	11月8日	豊田西病院へのZoomによるヒアリング ゲスト：馬場啓介さん（豊田西病院デイケア課／作業療法士）、石川昭彦さん（豊田西病院デイケア課／作業療法士）、企画作り
第7回	11月15日	藤田医科大学病院へのZoomによるヒアリング ゲスト：村瀬奈々さん（藤田医科大学地域連携教育推進センター）、西村亜里沙さん（藤田医科大学総務部学事課）、小島政紀さん（藤田医科大学病院企画広報課）
第8回	11月22日	「芸術家に社会課題の解決が出来るのか？」三木隆二郎、企画作り
第9回	11月29日	豊田西病院でのアウトリーチ（12月12日、1月16日実施）のランスルー
第10回	12月6日	藤田医科大学病院でのアウトリーチ（12月9日実施）、豊田西病院でのアウトリーチ（12月13日実施）のランスルー ゲスト：鈴木謙一郎先生（本学音楽学部教授／ピアノ）
第11回	1月10日	豊田西病院でのアウトリーチ（1月13日実施）のランスルー ゲスト：福本泰之先生（本学音楽学部教授／ヴァイオリン）
第12回	1月17日	藤田医科大学病院でのアウトリーチ（1月27日実施）のランスルー
第13回	1月24日	藤田医科大学病院でのアウトリーチ（12月9日実施）、豊田西病院でのアウトリーチ（12月13日実施）の振り返り
第14回	1月31日	豊田西病院でのアウトリーチ（12月12日、1月16日実施）、藤田医科大学病院でのアウトリーチ（1月13日、1月27日実施）の振り返り、後期のまとめ

授業内容および授業の様子

2023 年 4 月 19 日

講義担当：七條めぐみ

内容：プロジェクトの活動紹介

「アウトリーチ」という言葉の定義、日本国内での広がりについて触れた上で、本プロジェクトが目指すアウトリーチはどのようなものか、通常のコンサートとどのように異なるのか、過去の実践例を紹介しながら講義した。

2023 年 4 月 26 日

講義担当：三木隆二郎

内容：芸術アウトリーチことはじめ

本プロジェクトのスーパーバイザーによる、例年 4 月に行う導入的な講座である。自身の活動紹介も交えながら、芸術アウトリーチとはどのようなものか、教育・福祉・医療の 3 つの分野別に特徴を説明した。

2023 年 5 月 10 日

講義担当：三木隆二郎

内容：アウトリーチ・コンサートの制作

アウトリーチ活動は芸術を通じた「コミュニティ活動」であると言及した上で、実際にアウトリーチを行う際の手順を 8 つの段階に分けて説明した。また、企画を考える上で重要となる「エントリー・ポイント」（対象者の関心を惹きつける手段）について説明し、今後の企画作りに向けての指針を示した。

2023 年 5 月 24 日

ゲスト講師：佐藤文子先生（本学美術学部准教授／陶磁）

内容：障害者芸術活動支援事業について

佐藤先生がご自身の研究として取り組まれている、障害者芸術活動支援事業および“あいちアールブリュット”での出前講座についてお話しいただいた。障害者支援施設で利用者の方と一緒に制作した作品を見せていただきながら、支援事業において気を付けている点や難しい点などを伺った。受講生は、「完成度の高いものを作成することがゴールではない」「目の前の相手の創造性をサポートする」というアウトリーチにおける重要な気付きを得たようだった。

2023 年 5 月 31 日

講義担当：佐藤直樹（本学美術学部教授／デザイン）

内容：デザインとは何か

本プロジェクト副代表による、デザインの視点からの講義である。「デザインとは何か」という大きな切り口から、「サイン＝記号」には、「ハレとケ」「日常と非日常」を分かつことが可能であると説明された。それをアウトリーチに置き換え、対象者の日常に「非日常」として入り込むには、何に気を付けなければならないかを考えた。

2023 年 6 月 14 日

講義担当：三木隆二郎

内容：保育園アウトリーチ入門

実践先と行う打ち合わせの基本的な事項を確認した上で、特に保育園において心がけるべき点を講義した。また、過去の保育園アウトリーチにおける学生のコメントも紹介し、受講生にはアウトリーチを通じて演奏家としてどのような変化が起こり得るかをイメージしてもらった。

2023 年 7 月 5 日

ゲスト講師：石原慎先生（藤田医科大学医学部教授）

内容：藤田医科大学病院について

「病院」という場についての理解を深めるために例年実施する講座である。本プロジェクトの実践先の一つである、藤田医科大学で教鞭をとる石原先生より、藤田医科大学病院の理念と特色についてお話いただき、同病院が重視する「ホスピタリティ」の概念について解説していただいた。

2023 年 10 月 4 日

講義担当：三木隆二郎

内容：あなたは社会保障のことをどのくらい知っていますか？／病院や福祉施設でアウトリーチを初めて行う際の留意点

大学院修了後に音楽家として活動していく受講生に向けて、社会保障制度の基本について説明した。後半では、病院や福祉施設で行うアウトリーチが施設にとってどのような意味をもつのか、打ち合わせではどのような点に気を付けるべきかをレクチャーした。

2023 年 10 月 11 日

ゲスト講師：神谷幸宏先生（愛知県立大学情報科学部准教授）

内容：「感情測定」について

神谷先生が研究されている「非接触センサーによる感情の測定」について、センサーの仕組みや今後の活用例についてお話しいただいた。授業では、受講生の一人が被験者となり、講義中と演奏を聴いている時の生体情報（呼吸や脈拍による体表面の動き）を測定し、その変化がリアルタイムに映し出された。受講生たちは、音楽と密接な関係にありながらも曖昧な存在である「感情」が数値化されることについて、高い関心を示していた。

2023 年 11 月 8 日

ゲスト講師：馬場啓介さん、石川昭彦さん（豊田西病院デイケア課／作業療法士）

本プロジェクトの実践先の一つである、豊田西病院で働く作業療法士さんより、精神科病院とはどのような場所かをレクチャーしていただいた。「そもそも病気や健康とは何か」という問いから始まり、精神科病院では患者さんの心の「困りごと」を手助けしている、というお話は、精神疾患について身構えがちな受講生の肩の力を抜き、自然体でアウトリーチを行うきっかけ作りとなった。後半では、受講生が企画のプレゼンテーションを行い、それに対するフィードバックをいただいた。

2023 年 11 月 15 日

ゲスト講師：村瀬奈々さん（藤田医科大学地域連携教育推進センター）、西村亜里沙さん（藤田医科大学総務部学事課）、小島政紀さん（藤田医科大学病院企画広報課）

藤田医科大学および藤田医科大学病院の職員さんより、アウトリーチで何う会場や想定される対象者についてレクチャーしていただいた。患者さんに「癒しの時間」や「ポジティブな気持ち」を感じてほしいという病院側のニーズと、受講生が用意するプログラムをすり合わせ、より対象者に寄り添う企画を考える場となった。また、前週に引き続き病院の担当者と打ち合わせすることで、受講生の間には一口に「病院」といっても環境や対象者は様々であるという気付きが生まれた。

2023 年 11 月 22 日

講義担当：三木隆二郎

内容：芸術家に社会課題の解決が出来るのか？

これまでの講義の総まとめとなる、芸術家による社会貢献の可能性についてのレクチャーである。社会課題の実例を挙げた上で、アウトリーチを通じてそれらの問題にどのようにアプローチしうるかを説明した。また、芸術家が社会課題に取り組むには「つなぎ手」の存在が不可欠であることを強調し、他者とつながることへの気付きを促した。



2023 年 4 月 26 日 授業の様子
スーパーバイザーによる講義



2023 年 5 月 24 日 授業の様子
佐藤文子先生（本学美術学部准教授／陶磁）
による講義



2023 年 5 月 31 日 授業の様子
プロジェクト副代表による講義



2023 年 6 月 14 日 授業の様子
スーパーバイザーによる講義



2023 年 6 月 14 日 授業の様子
6 月 28 日実施チームのランスルー



2023 年 6 月 21 日 授業の様子
6 月 26 日実施チームのランスルー



2023年6月28日 授業の様子
7月13日実施チームのランスルー



2023年7月5日 授業の様子
石原慎先生（藤田医科大学医学部教授）
による講義（Zoom）



2023年10月11日 授業の様子
神谷幸宏先生（愛知県立大学情報科学部
准教授）による講義



2023年11月8日 授業の様子
馬場啓介さん、石川昭彦さん（豊田西病院デ
イケア課／作業療法士）によるお話（Zoom）



2023年11月15日
村瀬奈々さん（藤田医科大学地域連携教育推進センター）、西村亜里沙さん（藤田医科大学総務部
学事課）、小島政紀さん（藤田医科大学病院企画広報課）によるお話（Zoom）

4. 東部保育園へのアウトリーチ実施

倉橋祐佳里

「病院アウトリーチプロジェクト」では、初年度から継続して尾張旭市立東部保育園でのアウトリーチを行っている。2023 年度は、受講生 4 名、2 チームが 6 月 26 日、7 月 6 日の 2 日間にわたりアウトリーチを実施した。

① A チーム

日時 2023 年 6 月 26 日（月）10:00～11:30

ねらい それぞれの楽器の鳴る仕組みを知ってもらう

出演者 秋口響哉（トロンボーン、トランペット）、工藤まどか（ピアノ）

演奏曲 M. ムソルグスキー：組曲《展覧会の絵》より〈プロムナード〉

P. I. チャイコフスキー：組曲《くるみ割り人形》より〈金平糖の踊り〉

I. ストラヴィンスキー：組曲《プルチネルラ》より〈Vivo〉

N. リムスキー＝コルサコフ：熊蜂の飛行

メンター 石川貴憲

評価者 安原雅之、倉橋祐佳里

評価者所感 楽器が鳴る仕組みをわかりやすく伝えようと工夫していたが、乳児、年少にとってはやや難しい内容となった。一方で年中、年長クラスでは大変盛り上がり、園長先生にも「園児が持ち帰るものが多い内容だったと思う」と言っていた。園児に寄り添おう、わかりやすく伝えようという姿勢が準備からも本番からも感じられた。



自作のピアノ断面装置で説明する様子



〈熊蜂の飛行〉演奏風景

② Bチーム

日時 2023年7月6日（木）10:00～11:30

ねらい 自由に音楽を楽しもう（音楽を全身で感じる、音楽に合わせて体を動かしたくなる時間に）

出演者 三島加蓮（ピアノ）、桑野友里（ピアノ）

演奏曲 久石譲：さんぽ

C. ドビュッシー：《映像第1集》より〈水の反映〉（抜粋）

M. ラヴェル：《夜のガスパール》より〈スカルボ〉（抜粋）

レ・フレール：On y va！

N. カプースチン：2台ピアノのための《ディジー・ガレスピーの“マンテカ”によるパラフレーズ》

メンター 倉橋祐佳里

評価者 倉橋祐佳里、七條めぐみ

評価者所感 初めての2台ピアノでの実践となった。乳児クラスでは、園児がピアノに寄りすぎないように用意した花壇のモニュメントに注目が集まってしまうなどのハプニングもあったが、回を重ねるごとに改善や工夫を加え、園児の集中も高まっていたように思う。年長クラスでは園児が自然と立ち上がり手拍子やジャンプをするという盛り上がりも見られた。



2台ピアノ演奏風景



〈On y va！〉演奏風景

5. 北保育園へのアウトリーチ実施

中村由加里

「病院アウトリーチプロジェクト」では、初年度から継続して保育園での実施を行ってきたが、2023 年度は新たな実施先として武豊町立北保育園を加えることとなった。対象年齢を分け、6 月 26 日、6 月 28 日、7 月 13 日の計 3 日にわたりアウトリーチを実施した。

① A チーム

日時 2023 年 6 月 26 日（月）

9:45～10:05、10:10～10:25、10:30～10:50（3 回公演）

ねらい 表現方法の中に「音楽で表現する」方法があることを知ってもらい、子どもたちの表現方法の選択肢を広げる

出演者 永田佳暖（ソプラノ）、加藤愛梨（ピアノ）

演奏曲 福田和禾子：こんにちは

C. ドビュッシー：《子供の領分》より〈ゴリウォーグのケーキウォーク〉

G. クラム：ヴォカリーズ

W.A. モーツァルト：オペラ《魔笛》より「復讐の炎は地獄のように我が心に燃え」（「夜の女王」のアリア）

福田和禾子：こんにちは

メンター 中村由加里

評価者 中村由加里、七條めぐみ

評価者所感 乳児、年少児の興味、関心や集中力などへの配慮の見られる、子どもの目線に合わせたプログラムづくりがされていた。視覚的に動きのある紙芝居、園児との会話や参加型のアクティビティ、会場全体を使った演出などにより、コンサート終了時には子ども達が積極的に自らを表現する姿があり、目的を十分に達成することができた。



② Bチーム

日時 2022年6月28日(水)

9:30～9:50、9:55～10:15、10:20～10:40、10:45～11:05(4回公演)

ねらい おはなしや自分の気持ちを思い浮かべながら音楽を聴いてもらう

出演者 猪子奈津子(ヴァイオリン)、角美吹(ピアノ)

演奏曲 L. v. ベートーヴェン: ピアノ・ソナタ第20番

G. F. ヘンデル: ヴァイオリン・ソナタニ長調

湯山昭: あめふりくまのこ

R. シューマン: 《3つのロマンス》より第2楽章

メンター 石川貴憲

評価者 石川貴憲、七條めぐみ

評価者所感 音楽で「想像」してもらおうという難しいテーマであったが、園児の知っている物語や歌を使いながら、子どもたちが自然に想像できるような流れに持っていくことができた。子どもに対しての言葉選びや対応が丁寧で、奏者のコミュニケーション力の高さも成功に繋がる要因であった。また、子ども達だけでなく、保育士の皆さんからの感動や喜びの声が多かったことも印象的であった。



③ Cチーム

日時 2022年7月13日(木)

9:30～9:50、10:00～10:20、10:25～10:45、10:50～11:10(4回公演)

ねらい 音楽と動きを一緒に楽しんでもらう

出演者 光行彩香(ピアノ)、安達莉子(ピアノ)

演奏曲 F. メンデルスゾーン：《無言歌集》第1巻より〈狩の歌〉／童謡：うみ

G. フォーレ：組曲《ドリー》より〈子守唄〉

F. ショパン：小犬のワルツ／A. ハチャトゥリアン：剣の舞

久石譲：さんぽ

メンター 犬飼裕哉

評価者 犬飼裕哉、七條めぐみ

評価者所感 子ども達を巻き込む参加型アウトリーチであった。揺れる、転がる、足踏みをするなど、音楽に合わせた動きを誘導することにより、子どもが自発的に感じたままで身体で表現する姿が見られた。奏者の人柄や場の使い方、演出など、子どもが自由にのびのびと聴くことができる空気作りができたことが素晴らしかった。



大学院生によるピアノの生演奏を楽しむ園児ら＝武豊町の北保育園で



ピアノ生演奏に園児笑顔

武豊・北保育園 県芸大院生が披露

子どもたちに音楽の楽しさを感じてもらおうと、武豊町の北保育園で十三日、県立芸術大（長久手市）の大学院生がピアノの演奏を披露した。

園児の保護者に同大学の講師がいた縁で実現した。保育園を訪れた大学院音楽研究科二年の光行彩香さん（二二）と一年の安達莉子さん（二一）が四回に分けて、園児計約百人に生演奏を披露。

童謡「うみ」や、ショパンの「子犬のワルツ」など六曲を弾き、園児たちは体を揺らすなどして楽しく鑑賞した。

大学では病院などに出向き演奏を披露する「アウトリーチ」プロジェクトを七年ほど前から実施。園児を含め、音楽鑑賞の機会が限られる人に、生演奏を届けたい。同時に、学生にとっても音楽の魅力を伝える方

や会場の盛り上げ方を学ぶ機会になっているという。

演奏を聴いた年長の牧幸音ちゃん（五）は「ピアノを弾くお姉さん二人がかわいかった。また弾きにきてほしい」と笑顔を見せた。

（三宅駿平）

「安全安心な街に」

阿久比で推進大会

応募標語の表彰式も

阿久比町の「社会を明るくする運動・安全安心町民・青少年健全育成推進大会」が十五日、アグピアホ

7月13日の保育園アウトリーチについて報じる記事
『中日新聞』2023年7月16日（朝刊）知多版（第12面）より

6. 藤田医科大学病院へのアウトリーチ実施

犬飼裕哉

初年度から継続して実施していた藤田医科大学病院での院内コンサートは、長引くコロナ渦により 2019 年 12 月を最後に中断していたが、今年度より再開が可能となった。以前は人通りの多い B 棟パサージュ(院内の休憩スペースのような場所)での実施であったが、今年度は病院利用者が多く行き交うエリアからは少し隔離された、「フジタモール」横イベントスペースでの実施とした。

① A チーム

日時 2023 年 12 月 9 日 (土) 11:00～11:50

ねらい 「気持ちのリフレッシュ」私たちのエネルギッシュな演奏で、今日 1 日、少しでも楽しい気分になってもらう

出演者 桑野友里 (ピアノ)、三島加蓮 (ピアノ)

演奏曲 レ・フレール：Follow me! / 坂本龍一：Tong poo / 坂本龍一：Aqua
ジョン・レノン&ポール・マッカートニー＝武満徹：ゴールドデン・スランバー
N. カプースチン：2 台のピアノのための《ディジー・ガレスピーの“マンテカ”
によるパラフレーズ》
レ・フレール：On y va!

メンター 犬飼裕哉

評価者 犬飼裕哉、安原雅之

評価者所感 病院内で 2 台ピアノコンサートを実施するため、院内設備のグランドピアノと併せ、プロジェクト所有の電子ピアノと PA 機材を搬入しセッティングした。楽器の音色の差が心配されていたが、違和感なく成立していた。プログラム全体は明るく気分転換になりそうな曲をメインに、しっとりとした曲も挟み込みバランスよく構成していた。会場、天候、プログラム、奏者のキャラクターが相まって爽やかで気持ちの良いコンサートであった。



② B チーム

日時 2024 年 1 月 13 日（土）11:00～11:45

ねらい 「HOT」をキーワードに、コンサートを通して「ホッとする」、「心温まる」、「熱い気持ちになる」気分を味わってもらう

出演者 角美吹（ピアノ）、猪子奈津子（ヴァイオリン）

演奏曲 E. エルガー：愛のあいさつ

J. ブラームス：ヴァイオリン・ソナタ第 3 番 ニ短調 作品 108 より第 2 楽章

S. ラフマニノフ：ヴォカリーズ 作品 34-14（ヴァイオリン編曲版）

L.v. ベートーヴェン：ヴァイオリン・ソナタ第 9 番 イ長調 作品 47 《クロイツェル》より第 3 楽章

メンター 犬飼裕哉

評価者 三木隆二郎、石川貴憲、犬飼裕哉

評価者所感 受講 2 年目の彼女らは、本格的なクラシック曲で全てを構成したプログラムでいかに対象者に寄り添うことができるか、というある意味とても難しいテーマに挑戦した。MC でエントリーポイントを工夫して、いかに聴いていただく方たちの気持ちを引きつけるかという点を工夫した。演奏の質が特に素晴らしく、音大生が実施するアウトリーチコンサートの意義さを感じる回であった。

現場担当者からのコメント 終演後にお客様から「楽しかった、ありがとう。」「次もここでやるの？」等のお声がけをいただきました。とても楽しんでいただけたことが伝わってきました。学生さんがプログラムへの想いを話されていて、来場者により伝わったと思います。



③ Cチーム

日時 2024年1月13日(土) 11:50~12:30

ねらい 音楽を通して、対象者に癒しや楽しさを伝える

出演者 白金宙河(声楽)、永田佳暖(声楽)、足立真由(ピアノ)

演奏曲 W.A.モーツァルト：歌劇《魔笛》より〈パパパの二重唱〉

中田喜直：さくら横丁／C. ドビュッシー：《ベルガマスク組曲》より〈月の光〉

M. モンク：Early Morning Melody (アーリー・モーニング・メロディ)

F. レハール：オペレッタ《メリーウィドウ》より〈唇は黙して〉

メンター 中村由加里

評価者 三木隆二郎、石川貴憲、犬飼裕哉

評価者所感 声楽2人、ピアノ1人、という編成を最大限活かし、デュエット、それぞれのソロなど多彩なプログラムで構成されていた。ステージと客席の間が段差になっていて距離を感じる場所であるが、その階段をうまく利用して、オペラの登場人物の心情を上手く演出することに成功していた。最後には涙を流しながら聴いている方がいらっ



④ D チーム

日時 2024 年 1 月 27 日（土） 11:50～12:30

ねらい 音楽で巡るヨーロッパ旅行…患者さんに旅行に行った時のようなワクワクした時間や感動する時間を過ごしてもらう

出演者 安達莉子（ピアノ）、秋口響哉（トロンボーン）、高橋喜仁（トロンボーン）

演奏曲 E. エルガー：愛のあいさつ／J.=M. デュファイ：バッハ風に

F. リスト：《愛の夢》第 3 番／M. ルグラン：キャラバンの到着

E. モリコーネ：ニュー・シネマ・パラダイス

スタジオジブリ・メドレー（風になる～風のとおり道～いつも何度でも～さんぽ）

メンター 倉橋祐佳里

評価者 石川貴憲、七條めぐみ

評価者所感 プログラム“Music Passport”をうまく活用し、旅行のワクワク感を演出していた。選曲はいわゆる「ご当地もの」ではなかったが、視覚的要素が加わることで十分に旅行らしさが出ていた。MCでは楽器に焦点を当てており、「旅行」とは別の裏テーマとしても楽しめるようになっていた。総じて演奏、MC、視覚的要素のバランスが取れ、目的を達成していたと感じる。

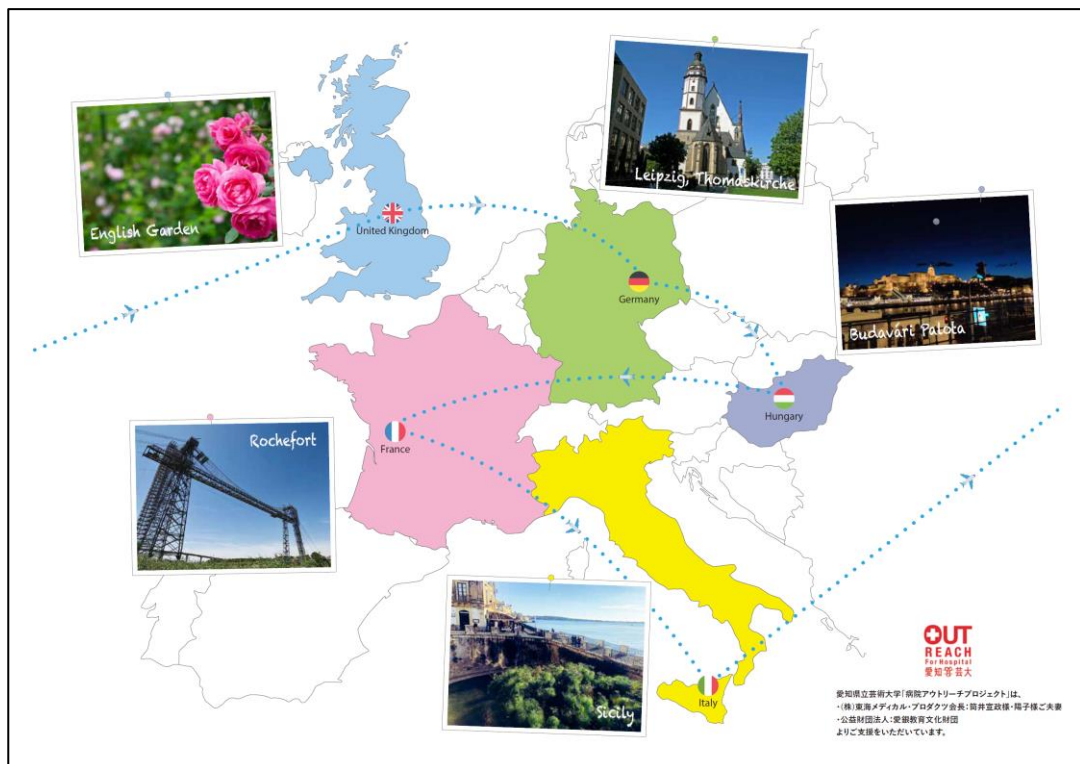
現場担当者からのコメント すてきな演奏でした。患者さんも楽しんでいただいたようで、こちらも嬉しかったです。テーマがはっきりしており、プログラムもすごくステキでした。帽子など小道具の準備で楽しませていたのでとても良かったです。3名の学生さんのお話が上手で、とてもわかりやすかったです。トロンボーンに馴染みのない方もいらっしやるので、生の演奏を聴くことができて喜ばれたと思います。



1月27日の公演で配布したプログラム“Music Passport”（作成：佐藤直樹教授）
表面（折りたたむとパスポートサイズになり、内部に曲の解説が書かれている）



裏面（ヨーロッパの地図）



7. 豊田西病院へのアウトリーチ実施

石川貴憲

今年度後期は、昨年から継続して単科の精神科病院である豊田西病院で、受講生 2 チームがアウトリーチを行った。12 月 12 日、12 月 13 日、1 月 16 日の計 3 日にわたりアウトリーチを実施した。

① A チーム

日時 2023 年 12 月 12 日（火）10:00～10:30

ねらい 音楽を通して、対象者にほっこりする時間を提供する

出演者 白金宙河（バリトン）、足立真由（ピアノ）

演奏曲 F. シューベルト：野ばら／F. ショパン：ノクターン Op. 9-2

中田喜直：さくら横丁

G. デュポン：《砂丘の家》より 6. 〈陽の光は波間に戯れる〉

クリスマスメドレー

メンター 中村由加里

評価者 三木隆二郎、中村由加里

評価者所感 3 人のチームで準備を進めていたが、前日にメンバーの 1 人が体調不良により参加が難しくなった。よって曲目は総入れ替え、即興的な部分も求められることになり不安な部分は大きかったが、とても頑張っていた。2 人の誠実な様子はお客様にも伝わり、質問コーナーでは多くの質問と共に応援の声もいただいた。

② B チーム

日時 2023 年 12 月 13 日（水）10:00～10:30

ねらい ユーフォニアムとピアノの魅力を伝え、音楽の楽しさを共有する

出演者 小谷由里香（ユーフォニアム）、加藤愛梨（ピアノ）

演奏曲 L. アンダーソン：アンダーソンのおもちゃ箱

C. ドビュッシー：亜麻色の髪の乙女

F. リスト：《パガニーニ大練習曲集》より第 3 番 〈ラ・カンパネラ〉

Ph. スパーク：Song for Ina（イナのための歌）

クリスマスソングメドレー

メンター 石川貴憲

評価者 石川貴憲、七條めぐみ

評価者所感 普段目にすることの少ないユーフォニアムという楽器を知ることができ、ゆったりとした気持ちと音楽に惹きつけられる瞬間両方を楽しめる、充実したコンサートだった。演奏後の質問コーナーに答える中で、2人の演奏に対する真摯な姿勢が自然と表現されていた。また急遽のリクエスト曲にも応え、和やかな時間となった。



③ A チーム

日時 2024 年 1 月 16 日（火）10:00～11:00

ねらい 音楽を通して、対象者にほっこりする時間を提供する

出演者 永田佳暖（ソプラノ）白金宙河（バリトン）、足立真由（ピアノ）

演奏曲 W.A. モーツァルト：オペラ《魔笛》より〈パパパの二重唱〉

中田喜直：さくら横丁／F. ショパン：小犬のワルツ

M. モンク：Early Morning Melody（アーリー・モーニング・メロディ）

なかにしあかね：今日もひとつ

F. レハール：オペレッタ《メリーウィドウ》より〈唇は黙して〉

ふるさと（アンコール）

メンター 中村由加里

評価者 七條めぐみ、中村由加里

評価者所感 12 月 12 日のリベンジ公演となり、念願の 3 人での演奏で安定感があった。演奏者のゆとりがお客様の心地よさを生み出した。マスクを着用したが表情の豊かさを感じる演奏で、すでにアウトリーチ経験をした 2 人はよりリラックスした様子で本番に臨めたようだった。飽きることのない演出で、お客様を魅了した。



8. アール・ブリュット

安原雅之・石川貴憲・倉橋祐佳里

(1) 概要

“アール・ブリュット”とは、画家ジャン・デュビュッフェ Jean Dubuffet(1901-1985)によって考案された用語で、「生の芸術」を意味する。この用語が示すものには、アカデミックな教育を受けないで創作活動を行っている人たちの作品などが含まれるが、近年では、障害者によるアートの代名詞ともなっている。

あいちアール・ブリュットは、「愛知県内の障害のある人の芸術・文化活動を通じて、障害のある方の社会参加と障害への理解が深まり、障害の有無をこえた交流が広がることを目指す活動」（あいちアール・ブリュットのウェブサイトより <http://www.aichi-artbrut.jp>）であり、2014 年以降、「あいちアール・ブリュット展」が開催されている。

2023 年度には、「あいちアール・ブリュット障害者アーツ展」の期間中にメインコンサートと 4 つの福祉施設におけるコンサートを開催し、「病院アウトリーチプロジェクト」が全体のコーディネートを担当した。

(2) あいちアール・ブリュット障害者アーツ展

① メインコンサート

愛知県立芸術大学は、愛知県障害者芸術活動参加促進事業実行委員会からの受託事業として愛知県福祉局福祉部障害福祉課と連携し、あいちアール・ブリュット障害者アーツ展での演奏企画、および福祉施設でのコンサートを実施している。

2023 年度は、メインコンサートとして、9 月 15 日（金）に「愛知県立芸術大学によるクラシックコンサート」を名古屋市東文化小劇場で開催した。このコンサートは、障害のある方、その親族・支援者などすべての方を対象としたもので、普段はコンサートに行くことを遠慮してしまう方も気軽に本格的なクラシック音楽を楽しんでいただけるように配慮し、プログラムが組まれた。開催概要は以下の通りである。

「愛知県立芸術大学によるクラシックコンサート」

日時 2023 年 9 月 15 日（金）13:00～14:00

会場 名古屋市東文化小劇場

出演者 トリオかさね

三浦可菜（ヴァイオリン）、三吉彩生（ファゴット）、倉橋祐佳里（ピアノ）

演奏曲 E. グリーク：《ペールギュント》より〈朝〉

久石譲：となりのトトロメドレー

E. グリーク：組曲《ペールギュント》より〈山の魔王の宮殿にて〉

D. ボールドウィン：バラード／A. ピアソラ：リベルタンゴ

J. ブラームス：〈ハンガリー舞曲〉第5番

J. ハイドン：ピアノ三重奏曲 Hob.XV:25「ジプシー風」第3楽章

演奏者所感

今年度、あいちアール・ブリュット障害者アーツ展メインコンサートにヴァイオリン、ファゴット、ピアノという編成で出演させていただきました。私は普段からアウトリーチ活動を行っていますが、今回のコンサートではMCに手話通訳や要約筆記がついたり、出入りを自由にするなど、普段のコンサートやアウトリーチよりもう一歩、対象者の方とコミュニケーションが取れる工夫がされており、大変勉強になりました。

当日は20代から70代以上まで、幅広い年代、障害区分の方にお越しいただきました。聴きに來てくださった方の笑顔とあたたかい雰囲気が伝わってきて、どの曲もとても楽しく演奏させていただきました。アンコールのラデツキー行進曲では手拍子で会場が一体となったのを感じました。アンケートでも生演奏が聴けて良かった、心が洗われたなどのご意見をいただき、とても嬉しく思います。

（倉橋祐佳里）

② 福祉施設でのコンサート

愛知県障害者芸術活動参加促進事業実行委員会からの受託事業費（社会福祉法人中日新聞社会事業団助成金）を始め、愛芸アシスト基金及び大学運営費交付金によって実施している。

◆社会福祉法人成春会蔵王苑（田原市）

日時 2023年12月6日（土）14:30～15:00

出演者 三浦可菜（ヴァイオリン）、三吉彩生（ファゴット）、倉橋祐佳里（ピアノ）

演奏曲 P.I. チャイコフスキー：組曲《くるみ割り人形》より〈行進曲〉

L.v. ベートーヴェン：エリーゼのために

ヨハン・シュトラウス1世：ラデツキー行進曲

石川さゆりメドレー／クリスマスキャロルメドレー

P.I. チャイコフスキー：組曲《くるみ割り人形》より〈トレパーク〉

美空ひばり：川の流れのように

代表 倉橋祐佳里

所感 クラシック音楽が好きな利用者さんが多く、リクエストもバラエティに富んだ曲目であった。「津軽海峡・冬景色」では、利用者さんが歌い始め最後には大合唱になる場面もあった。終演後には握手を求める利用者さんたちとの交流があった。



◆特定医療法人共和会 共和病院（大府市）

日時 2023年12月15日（金）10:00～11:00

出演者 石川貴憲（サクソフォン）中村由加里（クラリネット）犬飼裕哉（ピアノ）

演奏曲 笠置シズ子：東京ブギウギ／藤山一郎：青い山脈

青い三角定規：太陽がくれた季節／細川たかし：北酒場

J. コズマ：枯葉／山田耕筰：この道

J. マークス：赤鼻のトナカイ

代表 石川貴憲

所感 事前に職員さんにリクエスト曲を募集していただき、数多くの応募の中から選曲、構成したプログラムとなった。よく響く会場で充実した音響の中、サクソフォンとクラリネットの音色を楽しんでいただけた。演奏後は写真撮影の時間もあり、和やかな時間となった。



◆社会福祉法人相和福祉会 パスピ・98（知多郡阿久比町）

日時 2023 年 12 月 16 日（土）10:30～11:30

出演者 川井理紗子（ピアノ）、満吉香苗（フルート）

演奏曲 おめでとうクリスマス（We wish a Merry Christmas）

F. ショパン：小犬のワルツ

G. ビゼー：組曲《アルルの女》より〈メヌエット〉

久石譲：さんぽ／A. メンケン：美女と野獣

美空ひばり：川の流れるように

マジカル・サンタクロース（メドレー）

代表 川井理紗子

所感 コロナの影響で実に 4 年ぶりに総勢 60 名を超える方々が集結したクリスマス会ということもあり、熱気が高まった雰囲気の中でのコンサートだった。多岐にわたるプログラムだったが一緒に歌ったり手拍子をしてくださり、会場一体となり大いに盛り上がった。



◆社会福祉法人樫の木福祉会 かしの木の里（一宮市）

日時 2024 年 2 月 17 日（土）13:30～14:00

出演者 石川貴憲（サクソフォン）、倉橋祐佳里（ピアノ）

演奏曲 冬景色／笠置シヅ子：東京ブギウギ

久石譲：となりのトトロ／かぐや姫：なごり雪

L. デンツァ：フニコラーレ（フニクリ・フニクラ）

代表 石川貴憲

所感 インフルエンザ等の影響で日程の延期が続いてしまったが、結果的に節分のイベントと同時開催することにし、利用者さんに特別な 1 日を届けることができたと思う。熱心な職員さんの協力が印象的で、一体となり場を盛り上げることができた。



振り返り

1. 「病院アウトリーチプロジェクト」7年度目の振り返り

スーパーバイザー

三木隆二郎

2017 年度より始められた当プロジェクトの通年の授業の流れは、前期に保育園児の目の前で演奏するという、(ほとんどの院生にとって)アウトリーチ初体験をしてから、後期には実際に病院に行き患者さんの前で演奏することで、良質な「病院アウトリーチ」を実践するためのマネジメント・スキルを体験的に身につけるという構成となっている。ここ 4 年間は保育園や病院へのアウトリーチの実践がコロナ禍で大きな影響を受けて対面演奏の実施が出来なかったが、今年度は久しぶりに保育園も病院もアウトリーチ経験を積重ねることが出来た。今年は従来から毎年行っていた尾張旭市の東部保育園に加えて、新たに武豊町にある北保育園を訪問することとなった。

(1) 上期の教育内容の振り返り

スーパーバイザーとして行った座学の 4 月では「アウトリーチことはじめ」として筆者が設立に関わった東京湾岸地域にある NPO トリトン・アーツ・ネットワークの事例を通してアウトリーチとはどのようなものかを説明した。5 月の授業ではアウトリーチの作り方を段階毎に説明し、6 月の授業ではアウトリーチで実績ある演奏家インタビューを読んだ上で、気になったコメントや気づきを書き出すことによって、アウトリーチに臨む上での心構えを受講生は学んだ。

前期の院生 10 名の内訳は、鍵盤楽器 7、トロンボーン 1、ソプラノ 1、ヴァイオリン 1 (実践のみ) であり、保育園では以下の編成でアウトリーチを実践した：

【東部保育園 (尾張旭)】

A チーム トロンボーン、ピアノ

B チーム ピアノ、ピアノ

【北保育園 (武豊)】

A チーム ソプラノ、ピアノ

B チーム ヴァイオリン、ピアノ

C チーム ピアノ、ピアノ

新たな北保育園の演奏場所では、広い体育館の舞台の幕の陰から奏者が呼びかけに応じて降りてくることで園児のワクワク感の演出に効果があり、エントリーポイントとして興味を惹くことに成功していた。受講生からは「本物の芸術的質感を持つ演奏でしか伝えられない音楽の素晴らしさをどのように伝えるかを考えるために、綿密な実施計画

をチーム員で意見を出し合って作ったのは初めてだった」という感想が数多く聞かれた。

(2) 下期の教育内容の振り返り

スーパーバイザーとしては、「アーティストでも知っておかなければいけない社会保障」と「芸術家に社会課題の解決が出来るのか？」についてのレクチャーを行った他、県庁の担当部署を6年ぶりに訪問して近況報告を行った。また今期は愛知県立大学情報科学部の神谷幸宏准教授から呼吸や心拍をモニタリングすることで「聴き手が演奏をどう感じたか」を計測する技術を学んだ。

病院アウトリーチは豊田西病院（精神科単科）と藤田医科大学病院で実践することが出来た。豊田西病院の理学療法士からはオンラインで事前に、聴き手がどんな人かうかがい、演奏には参加者の生活に“心地よい刺激”を与えたいという共通目標(Shared Goal)を設定して頂いた。また藤田医科大病院の受入窓口の職員からも事前レクチャーの機会を設けた。

後期は声楽2名（ソプラノ、バリトン）、鍵盤楽器6名、管打楽器3名（トロンボーン2、ユーフォニアム1）+ヴァイオリン1名（実践のみ）で以下のチーム編成を行い、今期はピアノおよびヴァイオリンの教授がランスルーの立会いをすることで実技系の先生からも芸術的観点からのアドバイスをを行った。またひとつのチームにはデザイン専攻の教授が加わって、ビジュアル的にも病院での演奏会に参加した方の思い出になる当日プログラムの制作もした。

【藤田医科大学病院】

- A チーム ピアノ2名
- B チーム ソプラノ、バリトン、ピアノ
- C チーム ヴァイオリン、ピアノ
- D チーム トロンボーン2本、ピアノ

【豊田西病院】

- A チーム ソプラノ、バリトン、ピアノ
- B チーム ユーフォニアム、ピアノ

今期、藤田医科大学病院の演奏場所が病棟内パサージュから「フジタモール」横イベントスペースに変更になり、事前の下見で撮影した写真では天井がやや低いことが気になっていたが、実際に行ってみると全く気にならず音響的にも閉じられた空間なので好ましい環境だったのは幸いだった。各チームとも前期の保育園での経験を踏まえて、それぞれに選曲やトークにも工夫が見られた。特に豊田西病院は理学療法士が病院アウトリーチの盛り上げ役として積極的に関わり、一生懸命な受講生の演奏を見て聴くことで、精神的に本調子でない方にとって前向きになるきっかけとなれば病院アウトリーチがウィンウィンの関係作りに貢献することになるろう。

振り返り

2. メンターとしての振り返り

中村由加里・石川貴憲・犬飼裕哉・倉橋祐佳里

今年度は尾張旭市立東部保育園、豊田西病院のほか、武豊町立北保育園が実施先として加わると共に、藤田医科大学病院でのアウトリーチコンサートも再開された。年齢や環境など、様々な状況下における対象者へのアウトリーチを経験し、受講生にとっては学びの多い充実した1年となった。

受講2年目の学生は1年目での経験を生かし、難易度の高いねらいを定めることや、自分への挑戦を試みるなど、積極的な姿勢がみられた。本番では、特に進行の面でのゆとりが感じられ、場数を踏むことの効果を実感した。初めての受講生は、アウトリーチ自体への興味関心がある、これまでに何度も自主企画をしたことがある、自分の研究と絡めていきたいと考えるなど、すでにアウトリーチや社会との繋がりへの意識が高い学生が多かった。そのためか、アウトリーチや社会のことを座学で学び、過去のアウトリーチを鑑賞する過程で、自分が対象者に向けてどのようなことが出来るのかを定めることが早かったように思う。

アウトリーチでは、メンバー間の信頼関係や仲の良さが空気感として出てしまうため、チーム構築が重要であるが、今年度は、初対面であったり共演経験がない者同士であっても、目的に向かって各々を尊重しつつお互いが協力し、プログラム作りに真摯に向き合う姿が非常に印象的であった。

今日では、「アウトリーチ」という言葉を耳にすることや実施の機会も増えてきているように感じるが、その「アウトリーチ」がただの派遣演奏になってしまわぬよう、受講生には卒業後も本プロジェクトで学んだことを生かし、音楽家としての自分と社会との繋がりを構築していくことを願う。

(中村由加里)

今年度、豊田西病院では昨年から継続で実践を行った。要領を得てくださった職員さんが昨年に増して積極的に場を盛り上げてくれるなど、同じ施設で継続する甲斐が感じられる機会となった。また武豊町立北保育園は新たに実施先として加わり、初回から協力的に運営をサポートしていただいた。各施設との関係作りが受講生のより良い学びに繋がると感じている。

藤田医科大学病院の実践では、デザイン専攻に依頼したプログラム冊子が素晴らしい役割を果たし、美術学部とのコラボレーションの意義が感じられた。

アウトリーチ演奏を企画する際「親しみ」を意識することは大切で、テーマ設定によってはジャズやポップスなどの作品も候補となることがある。これ自体はクラシック音楽を学ぶ学生にとって新しいスタイルに取り組む良い契機となるが、短期間の準備では付け焼き刃的な演奏になることがあり、メンターとして見守りが必要だと感じている。

受講生には今後クラシック音楽とは異なる演奏スタイルのレパートリーについては「注意深く」積極的に増やし、シチュエーションに対して効果的な選曲とパフォーマンスができるようになってほしいと願っている。

(石川貴憲)

アウトリーチコンサートを実施する演奏家に求められる力は、①演奏曲のレパートリーを増やす力（選択肢の幅を広げる）、②それらの曲を、シチュエーションに合わせたプログラムとして組み立てる構成力（対象者理解）、③実際のステージでのパフォーマンス力（MC・演奏）、の主に3つだと個人的に考えている。学生たちは、それらの全てを短期間で鍛えていく必要があるため、それなりにハードな授業になることは受講1期生だった私が身をもって体感している。また、メンターとして指導する側も、学生たち1人1人の個性を活かしつつもグループでのバランスを考え、適切に背中を押したり引っ張ったりすることは容易なことではない。今年は前期に保育園、後期には数年ぶりに病院内でのアウトリーチコンサートを再開することができたのだが、病院アウトリーチは自分自身が1アーティストとしての使命とモチベーションを大きく得た重要な機会だったため、その場を再び取り戻すことができたのは大変ありがたく、嬉しく感じた。そして学生たちはコンサートに向けて真剣に準備をし、どのチームもベストパフォーマンスを尽くしてくれた。たった1度のコンサートが、たった1曲の演奏が、聴いてくれた方のかげがえのない出会いになることもあれば、演奏家自身に

とっても人生を変えるような大きなきっかけになることもある。そんな奇跡が今年も生まれてくれていたらいいなと思う。音楽家にとって、「音楽のために音楽をする」ということだけでなく、「音楽を通して人と関わる、社会と繋がる」ことに意義を見いだしたアーティストが増えていくと、もっと面白い世界になっていくのではないかなと思う。

(犬飼裕哉)

前期は、初年度からアウトリーチを行っている東部保育園に加え、新たに北保育園でのアウトリーチを実施することができた。普段演奏するうえであまり接する機会のない園児の素直な反応は、受講生にとってトークの面だけでなく演奏面でも大きな学びや発見に繋がっていると思う。また、今年度は鍵盤楽器領域からの受講生が多く、ピアノと電子ピアノの2台編成にも挑戦した。音のバランスや配置など懸念点があったが、リハーサルを重ね無事本番を終えることができた。

後期は藤田医科大学病院と豊田西病院に伺ったが、どちらの施設もお客さんが大変あたたかく、受講生の自信に繋がる大切な機会になっていると感じる。演奏会の企画だけでなく、プログラム制作のプロセスを体験するなど、受講生にとって多方面の学びの場となっていることを嬉しく思う。

演奏において大切にしたいことや人生観は人それぞれ違うが、授業には受講生やメンターなど多くの演奏家が参加するため、そこで出るとくさんのアイデアや意見を自分なりに取捨選択しながらそれぞれが自分自身のアウトリーチ観を養ってほしいと思う。最近は授業を受講してアウトリーチに興味を持ち、受講生が各市町村のアウトリーチ企画に積極的に参加する様子が見られる。大学外で活動する時に、本プロジェクトで養った自分自身のアウトリーチ観を大切にしながら、受け手の施設や劇場の方に寄り添った考え方のできる演奏家に成長していただきたい。

(倉橋祐佳里)

振り返り

3. 受講生の振り返り

2023 年度は 13 名の大学院生が「アートマネジメント」の授業を受講した（前期のみ、後期のみの履修も含む）。以下に、受講生からの振り返りコメントを掲載する。

昨年度から続いて 2 年目に受講しましたが、昨年後期は豊田西病院、そして今年は初めて藤田医科大学病院にアウトリーチに行きました。実際に病院アウトリーチをすると、今までの病院のイメージ、アウトリーチのイメージとは違いました。今までの病院のイメージは、あまり大きい音や派手さ、明るさは好まれないのでは無いかと思っていましたが、そんな事はありませんでした。私たちの演奏が、病院に通っている人の心のリフレッシュになっているように感じられる場面もありました。アウトリーチという言葉も、昨年度この講義を受講するまで、なんか聞いた事あるけどよく分からないという認識でした。演奏を聞きたいというニーズと演奏の機会を必要としている奏者とを繋げる人の役割と重要性もアウトリーチを通して知ることが出来ました。

（管打楽器領域 2 年 秋口響哉）

この 2 年間で保育園や病院等、様々な場所でのアウトリーチを経験しました。初めの頃は何をどのように決めていけばいいのかわからず、大変な思いもしましたが、回数を重ねるうちに、自分なりにアウトリーチのノウハウが出来上がっているのを実感しています。しかしながらノウハウが出来上がるにつれ、自分が毎回同じ壁にぶつかっているということも感じています。

私の場合、「クラシック音楽に親しみをもって欲しい！知ってほしい！」という気持ちが先走るあまり、対象者理解が疎かになってしまったり、あれもこれもと説明が長くなってしまったりすることが課題です。こちら側からいろいろと説明するのではなく、もっと聴き手の想像力を引き立てられるようなトークが出来るようになりたいです。

来年度から中学校教諭として勤務するにあたり、2 年間アウトリーチを通して学んだことを活かしていきたいと思っています。

（鍵盤楽器領域 2 年 角美吹）

昨年度から受講したいと思っていた授業でしたが、授業を通して自分が想像していた以上に音楽と言葉の力を実感させられました。私がこれまで経験してきたコンサートのほとんどは、奏者が演奏し聴き手はひたすら耳を傾けるという、一方通行なものでした。しかし、保育園という相互的なやりとりが特に必要な場所で、どのようにしたらクラシ

ック音楽を自然に受け容れてもらえるのだろうか、とても深く考えました。準備は非常に大変で回り道もたくさんしましたが、その分「とにかく音楽を楽しんでもらいたい」という思い・目的を共有することができたように思います。観客との距離が近く、音楽を間近に聴き実際に身体を動かしてもらうことで、私自身もインプット（演奏）とアウトプット（反応）を同時に行えるという、貴重な経験ができました。今後も、目標を共有することを忘れず、聴き手の真のニーズに寄り添える演奏ができる人間でありたいです。

（鍵盤楽器領域 2 年 光行彩香）

僕は、後期のみ受講させていただきました。今回は有難いことに 3 回も現場で演奏することができ、とても多くの学びがありました。その一つが、MC です。一回目の演奏会では緊張して台本を見ながらも間違える状態でしたが、それがお客さんに伝わってしまったり、ただ曲の解説をしているだけでは、全く頭に残らなかったり、お客さんもその曲について何もわからない状態では聞く姿勢になっていないというのが分かり、例えば、リラックスできる環境を作ってから演奏したり、和ませたり、自分の趣味や好きなものなどに関連させて親近感を持たせることがすごく重要だと思いました。また、アウトリーチでは聴き手と奏者の距離が近く、お客さんの表情が分かりやすかったり、終わった後に質問コーナーを設けることができるのが魅力だと思うので、今回得た学びを次に生かしていけたらいいなと思います。

（声楽領域 1 年 白金宙河）

私はこの 1 年、保育園と病院でのアウトリーチ活動を通し、たくさんのことを学びました。その中でも、アウトリーチを行うことで、対象者の方にどのような気持ちになってもらいたいのかという“ねらい（Shared Goal）”を定めることがいかに重要かを学びました。その“ねらい”があるからこそ、この曲を対象者の方へ届けたい、このプログラム内容にするんだといった流れになることを理解しました。また、この“ねらい”を共演者の間できちんとすり合わせ、プログラムを作っていかなければ、対象者の方を混乱させてしまうということも学びました。

アウトリーチ活動は、対象者の方だけでなく、その周りの方々へも音楽を届けることができる素晴らしさもありました。また、それは直接的に音楽を届けるだけでなく、例えば保育園児が家に帰り保護者の方と話すきっかけを届けることもできる素晴らしさがありました。

たくさんの支えのもと、音楽を届けに行くということが成り立つアウトリーチ活動は容易いものではありませんが、音楽を通してなにかを届けることができるアウトリーチ活動を今後とも学び、続けて参りたく思います。

（声楽領域 1 年 永田佳暖）

私は後期のみ受講させていただきました。ソプラノ、バリトン、ピアノという編成で、豊田西病院と藤田医科大学病院にてコンサートをさせていただきました。

お聴き下さる患者さんに癒しの時間をお届けしたいという想いのもと、二重唱やソロでのクラシックをはじめ、日本歌曲、豊田西病院ではクリスマスメドレーなど、様々なジャンルから選曲しプログラムを構成しました。また MC について、会場の雰囲気が和むようなトークや言い回しの提案など、メンターさんからアドバイスを頂き、お客様にリラックスしていただけるような MC を心がけ考えました。12月に終えた豊田西病院でのコンサートでは、演奏後の質問コーナーにてたくさんの患者さんから質問を頂き、温かい雰囲気の中色々なお話をさせていただくことができとても嬉しかったです。

クラシックコンサートとは違う現場で、臨機応変に対応する力や MC の構成の仕方等、今後の音楽活動の為になる大切なことを学ぶことができ、大変有難い機会でした。

(鍵盤楽器領域 1 年 足立真由)

元々アウトリーチにとっても興味があり、1 年間受講いたしました。日々の講義では、様々な分野で活躍されている関係者の方々から貴重なお話やアドバイスをいただくことができ、自身の実践に活かすことができました。

前期は、連弾とピアノソロで保育園に伺いました。最初のランスルーでは、子ども目線で曲目や構成を考えすぎて、「自分たちがアウトリーチをやる意義」についての指摘を受けて、最後まで選曲について悩みました。しかし、本番まで何度も試行錯誤を繰り返した結果、子どもたちに寄り添い、喜んでもらえた演奏会になったと感じます。

後期は、いよいよ病院でのアウトリーチということで不安もありながら、病院の先生方のお話などをふまえて、構成を考えました。今回は初の試みで、デザイン専攻とコラボをさせていただき、旅行のパンフレットをイメージしたプログラムを作成いたしました。お客様にどのような言葉や写真を選んだら、音楽を通して旅行気分を楽しんでいただけるのか、かなり悩みましたが、当日はお客様の笑顔を見ることができ、本当に意味のあるアウトリーチ公演ができたと感じております。

(鍵盤楽器領域 1 年 安達莉子)

1 年間この授業を履修しましたが、前期と後期を通して「音楽」の力を改めて感じることができました。前期は未就学児が対象でしたが、子どもたちとの関わり方が分からず、子どもたちが飽きないように音楽以外の面で魅せる方法で挑みました。しかし実際は、子どもたちは音楽の要素だけでも、私が思っている以上に色々汲み取り、感じようとしていました。

後期の病院では、テーマを絞らず、純粋に音楽の良さを感じてもらえるようなプログラムを考えました。病院だけに限りませんが、アウトリーチを通していろいろな方々と

交流できることの貴重さ、音楽を共有できる喜びを味わうことができました。

達成感もありましたが、一年間授業を履修して見つかった個人的課題もありました。とくに苦戦したのがMCにおける「エントリーポイント」です。対象の方に寄り添うことを第一に考える、というのがとても難しく、前期後期ともに、共演者とメンターさんに頼ってしまいました。実際、曲に対するアプローチの仕方（MC など）次第で、対象者の聴き方もかなり変わるということを、実践を通して痛感し、「エントリーポイント」がいかに大切かを知ることができました。自分一人の力でもできるよう、今後の課題にします。

（鍵盤楽器領域 1 年 加藤愛梨）

私は、今回初めてのアウトリーチだったので何もわからない状態からのスタートでした。去年経験者のトロンボーン先輩に色々教えていただきながら、選曲からMCまで1から考えていくことがとても楽しかったです。保育園へのアウトリーチは、私自身園児との交流がなく最初は不安でいっぱいでした。音楽用語はもちろん、難しい言葉を使わず園児が理解できるように話すことは私にとって1番の難題だったなと感じています。

私たちのアウトリーチでのテーマが「楽器の構造について知る」というものだったので、内容は少し難しいものでしたが、園児にわかりやすく、かつ楽しく行うため言葉づかいや視覚的な楽しさをたくさん取り入れるなどさまざまな工夫をしました。当日は4回公演だったので、最初は緊張しましたが園児たちとのコミュニケーションを経てだんだんとリラックスでき楽しくアウトリーチを行うことができました。

今回のアウトリーチで、音楽を聴いてくださる方々に寄り添うことの大切さを学びました。今後の音楽活動に活かせるよう精進したいと思います。

（鍵盤楽器領域 1 年 工藤まどか）

この授業を通して、初めてアウトリーチという取り組みの存在を知りました。前期は保育園での実施でしたが、小さい子供に慣れておらず準備の段階ではとても不安でした。しかし、メンターさんとの話し合いや、保育園の先生方との打ち合わせ、ランスルーをするうちに沢山のアイデアが生まれ、コンサートに向けて自信をつけていくことができました。

講義の中で、アウトリーチはサービスではなくホスピタリティであること、ただ演奏をするだけではなく狙いをもってコンサートを作ることが大事だと学び、私たちは園児に「自由に音楽を楽しんでもらう」をテーマに、私たちだからこそできるプログラムを考えました。実際にコンサートを行ってみて、園児たちが狙い通りの反応を見せてくれることもあれば、予想外の行動をとることもあって、回数を重ねるごとに少しずつMC

を変えたりして柔軟に対応できるよう努めました。

今回のアウトリーチの経験を今後の音楽活動にも活かしていきたいと思います。

(鍵盤楽器領域 1 年 桑野友里)

前期、後期通して受講しました。前期の幼稚園での実践のときは、アウトリーチという言葉の意味もあまり分かっておらず、何をしたらいいか、右も左も分からない状態からスタートしました。自分たちで 1 からプログラムと MC を考えるのは初めてだったので最初は苦戦しましたが、「楽しんでもらうためにはまずは自分たちが楽しむ」を軸に、ペアを組んだ学生と何回も試行錯誤し、本番では自分たちも子供たちにも楽しんでもらえてとても納得のいく形で終わることができました。後期は打って変わって病院でのアウトリーチで、保育園でのアウトリーチよりも気を配らなければならない点も多く、特に MC の面で何度も修正を重ねました。クラシックの曲を入れない、という挑戦のプログラムを組み、どういう反応が来るか不安でしたが、当日は体を揺らして聴いてくださっている方もいて、反応が直接伝わってきてとても嬉しかったです。人前で演奏を披露する手段として、今まではコンサートホールで演奏する機会しかなかったのが、アウトリーチを通して得た、「反応がすぐに直接返ってくる」という体験が自分の自信に繋がりました。

(鍵盤楽器領域 1 年 三島加蓮)

私は後期からプロジェクトに参加し、豊田西病院にピアノとユーフォニアムの編成でお伺いしました。三木先生の講義ではアウトリーチの目的や意義など基本の知識を学び、県大の神谷先生の講義では体の表面の振動で測る実験に参加し、音楽を聴く側のリアルな気持ちを考えるきっかけになりました。また、病院の職員の方々との打ち合わせでは、選曲や演出での不安を相談し、本番へのイメージがより明確になっていきました。

当日は職員さんも患者さんもあたたかく迎えてくださり、MC も演奏も楽しみながら進めることができました。

プロジェクトに参加して、アウトリーチの“シェアド・ゴール (Shared Goal)”をよく考え設定することや、音楽を届ける相手の情報を集め、その人の気持ちになって曲や言葉を選ぶことなど、音楽家としてのあり方のヒントを見つけられたような気がしています。1 人の社会人として音楽を通して人や社会に貢献できる人間になっていきたいです。

(管打楽器領域 1 年 小谷由里香)

私は後期からこの講義を履修しました。以前からアウトリーチという活動に対して非常に興味と共感を持っていたので、大変有意義な時間を過ごすことが出来ました。

私たちは当初「映像」と音楽を共に楽しめるようなものを考えておりましたが、講義

の中で様々な意見を頂き、今回病院で演奏する意義も踏まえた結果、「旅行」をテーマにした演奏会を企画しました。さらに、映像の代わりにデザインの佐藤先生にご協力頂き、パスポート型のプログラム（広げると旅行地図になっている）を作成して頂きました。このプログラムによって私たちの目指している演奏会のコンセプトをよりお客さまに感じて頂けたように思います。

当日コンサートをした時、私たちが大好きな音楽をお客さまも共に楽しんで下さっているように私には感じられました。この共感的な作用こそが音楽の持つ素晴らしさのひとつだと思います。アウトリーチという活動は我々がお客さまの元に出向いて演奏するので、お客さまに1番に楽しんでもらうことが重要です。しかし、私たちはまず第一に音楽を楽しむことの専門家であるということも忘れてはならないように思います。私たちが愛してやまない音楽をどのように伝えたらお客さまにも楽しんでもらえるか、この事の奥深さについて非常に考えさせられる大変素晴らしい機会となりました。

（管打楽器領域1年 高橋喜仁）

1. Artistic Outreach in Hospitals Project

Representative Masayuki Yasuhara

Although various artistic outreach activities exist in which musicians / artists take their music / art works to show to the people who have difficulty visiting music halls and museums, the Artistic Outreach in Hospitals Project delivers music / art exclusively to hospitals and welfare facilities. Under this project, we foster the involvement of artists in high-quality artistic activities in these sites, specifically master class students majoring in fine arts and music in the graduate schools of Aichi University of the Arts (AUA).

For this purpose, we created new classes specializing in artistic activities provided in hospitals and welfare facilities, by expanding the Arts Management classes offered by the Graduate School of Music (with classes opened as Project Study courses in the Graduate School of Fine Arts) in the year 2017-18. Through these classes, students gained theoretical knowledge and practice of artistic outreach activities dedicated to children (age 2-6) in the first semester and to hospitals, facilities for the disabled, etc. in the second semester, to gain know-how about these activities, and to acquire the necessary skills to plan and carry them out.

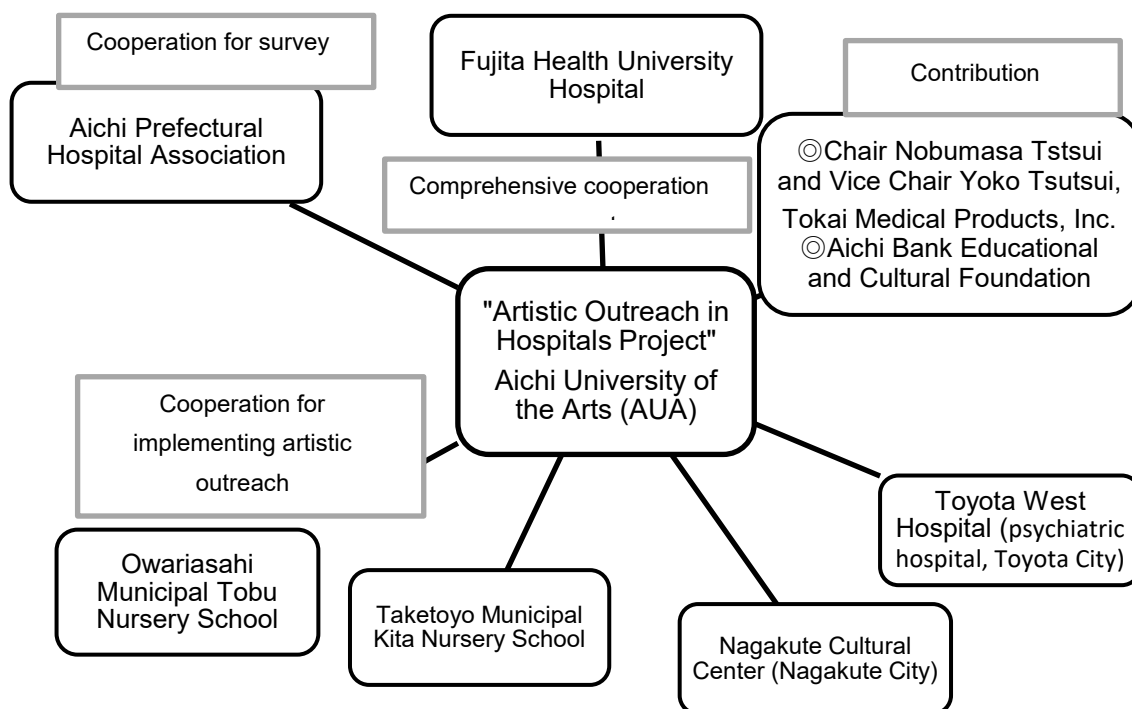
Artistic outreach activities in these places provide healing to the people, help to improve their quality of life, provide students with opportunities to experience the reality, and enable AUA to contribute to local communities.

Although the necessity of artistic activities in medical- and welfare facilities is recognized, know-how about the activities has not yet been established. Under these circumstances, the Artistic Outreach in Hospitals Project is expected to generate significant results for Aichi Prefecture as well as the rest of Japan through participating these activities at AUA.

2. Project Implementation Structure and Cooperative Organizations

Yoko Hata

The Artistic Outreach in Hospitals Project aims to nurture artists involved in artistic outreach activities in medical-, educational and welfare environments, to conduct survey and research on artistic activities, and to contribute to local communities through music / art. To implement the project in the year 2023-24, we have received great support and cooperation from local medical institutions and cultural facilities, including Fujita Health University Hospital; Mr. Nobumasa Tsutsui and his wife, Mrs. Yoko Tsutsui, chair and vice chair respectively of Tokai Medical Products, Inc.; the Aichi Bank Educational and Cultural Foundation, and the Nagakute Cultural Center. A simple diagram of the project implementation structure is provided below.



Project members in the year 2023-24

Representative: Masayuki Yasuhara (Professor at AUA; musicology)
Deputy Representative: Naoki Sato (Professor at the Faculty of Art, AUA; design)
Supervisor: Ryujiro Miki (Adjunct instructor at AUA; art management)
Observer: Satsuki Inoue (Professor emeritus at AUA; musicology)
Adviser: Kaori Murase (Adjunct instructor at AUA; music therapy)

Coordinator: Yukari Nakamura (Graduate of AUA; clarinetist), Takanori Ishikawa (Graduate of AUA; saxophonist), Yuya Inukai (Graduate of AUA; pianist), Yukari Kurahashi (Graduate of AUA; pianist)
General Secretary: Megumi Shichijo (Instructor at AUA; musicology)
Secretariat: Yoko Hata (Graduate of AUA; musicology)

3. Donations / Grants

Masayuki Yasuhara

In AY 2017, the Artistic Outreach in Hospitals Project of Aichi University of the Arts received a donation of five million yen from Chairman Nobumasa Tsutsui and Vice Chairwoman Yoko Tsutsui, his wife, of Tokai Medical Products Inc. We are deeply grateful for their generosity.

Each year, these funds are being used for operating expenses for outreach programs such as in-hospital concerts, including performer fees and travel expenses, transportation costs for musical instruments and equipment, and creating flyers.

We received valuable advice from Vice Chairwoman Yoko Tsutsui that, based on her experience of spending long days and hours with her second daughter, Yoshimi, during her long hospital stay, hospital outreach should not be about holding a great concert, but rather about how to perform in a way that touches the people who need it.

Heeding this advice, this project has placed emphasis on “being one with the listener” in all of its outreach events. After the COVID-19 pandemic, during which in-person activities were limited, we were able to hold concerts at a total of four hospitals and childcare facilities in AY 2023. These outreach activities and other events are instilling in our students the habit of tailoring to the audience their choice of pieces performed and the way they moderate the programs.

In addition, in AY 2023, we were fortunate enough to be selected for the AY 2023 (34th) grant (general grant/organization) from the Aichi Bank Educational and Cultural Foundation, a public interest incorporated foundation, and received a grant of 400,000 yen. We are deeply grateful for their generosity.

This grant was used for performer fees and travel expenses for two of the outreach activities for this fiscal year, namely, the concerts at Fujita Health University Hospital and Toyota West Hospital.

4. Artistic Outreach in Hospitals Project in AY 2023

Megumi Shichijo

The Artistic Outreach in Hospitals Project is in its seventh year in AY 2023. This year, we were able to hold in-person outreach performances at Fujita Health University Hospital and Toyota West Hospital, as well as at two nursery schools during the first semester. In May 2023, COVID-19 was reclassified as a “Class 5 infectious disease,” which led to the easement of restrictions on people entering and exiting medical institutions, allowing in-person outreach programs to resume. Rather than returning to the same conditions as before the pandemic, measures were taken to prevent the spread of infectious diseases, such as maintaining an appropriate distance between the performers and the audience and ensuring good ventilation. Such practice has become the norm because, just as infection prevention measures such as hand washing have become common practice after the pandemic, outreach performers have learned to take precautions to ensure that the target audience can enjoy themselves with peace of mind.

In the first semester of this year, in addition to the Tobu Nursery School (Owariasahi City), in which we are regularly active, we also held an outreach performance at Kita Nursery School (Taketoyo Town). In the first semester, five teams of 10 students were formed, with two teams visiting Tobu Nursery School and three teams visiting Kita Nursery School. This is the seventh annual outreach program at Tobu Nursery School, the first being during our first program year. Taking advantage of the relationships we have built up over the years, Tobu Nursery School was visited by two teams with an unusual instrumental combination: trombone with piano and two pianos, one of which was an electronic piano. Instead of limiting the program to classical music and nursery rhymes, it included detailed introduction of musical instruments and jazz pieces. During the planning stage, the team meticulously designed the program to suit the needs of toddlers, considered how to position the two pianos, and in the end, was able to conduct a fruitful outreach program that made the most of the expertise of the participants. As

for Kita Nursery School, which is where the author's son attends school, the outreach project was made possible because the director became interested in it. Since this was a first-time venue for the project, students and staff visited the nursery school in advance, gave a project presentation, and received feedback on it. This time, since this project emphasizes the idea of a "shared goal,"¹ we made sure both sides cooperated in the preparation process by having students interview the school on how the children are on a daily basis and asking the nursery school to take measures so that the children could look forward to the program. Thanks to this, we were able to carry out an outreach activity that provided positive stimulation to the nursery school children.

In the second semester of this year, we conducted the program at Fujita Health University Hospital and Toyota Nishi Hospital. Five teams of 11 students each were organized for the second semester: four teams visited Fujita Health University Hospital and two teams visited Toyota Nishi Hospital.² At Fujita Health University Hospital, the last in-person performance was in December 2019, and only footage was provided in the recent years due to the COVID-19 pandemic. In this academic year, after discussing what kind of outreach was possible, we were able to hold four outreach performances in three days at the newly established event space next to Fujita Mall. For the last of the four performances, we collaborated with Professor Sato of the Faculty of Art, Department of Design and Craft, at our university to create a program that would allow the audience to enjoy the performance visually as well. In addition, through the four performances, we received support from Fujita Health University and Fujita Health University Hospital in the practical aspects of our outreach program, such as displaying posters, advertising in newspapers, and conducting questionnaire surveys, which helped us successfully conduct the first in-person performance in approximately four years.

The Toyota Nishi Hospital outreach performance was in December, the same as the previous academic year. For one of the two planned days, one of the performers fell ill just before the actual performance, making it impossible to carry out the originally planned program. For this reason, we were given the opportunity in January to have a "do-over performance" with all members present, and we delivered a program that

¹ Shared goal: Refers to a goal that can be shared by the outreach performer and the venue and is a verbalization of what outreach activities aim to achieve. It is proposed by the Curtis Institute of Music in the United States, which is a pioneer in this project.

² Of the five teams, only one performed at both hospitals.

included the songs we had planned, as well as the songs requested at the December performance. This program was opened with songs by occupational therapist at Toyota Nishi Hospital, which not only broke the ice between the performers and participants but also served as an “entry point”³ of the program itself. Thanks to this, the students were able to perform in a relaxed state. Additionally, communication between on-site staff and students has deepened with each session, creating an environment conducive to delivering better and improved outreach programs.

Despite these successful implementation cases, budgetary difficulties continued for this project this academic year. First, budgets have been cut across the entire university, making it difficult to conduct outreach activities on the same scale as before. Since we cannot reduce instructor fees so as to maintain the quality of our outreach programs, we ended up inviting less guest instructors. Although this may have allowed the students to focus on the outreach at hand, it is undeniable that the opportunities to provide students with a wide range of awareness and knowledge have been reduced. It is also difficult to obtain external funds. Although we were able to receive a grant from the Aichi Bank Educational and Cultural Foundation this year, more funds are needed to secure continued operation of the project. To make the project sustainable, we must continue to seek funding both inside and outside the university.

³ In outreach activities, “entry point” refers to a means of navigating the audience's attention to the performer.

5. List of Artistic Outreach Activities in AY 2022

Yoko Hata

List of Artistic Outreach Activities in AY 2023

Public performance No.	Date of performance	Project content	Venue	Target(s)	Breakdown of performers	Performance time (min.)	No. of beneficiaries (persons)	No. of staff members (persons) [Note 1]
1	June 26 (mon)	Artistic outreach activity at a nursery school (4 performances)	Tobu Nursery School (Owariasahi)	Nursery school children / Childcarers	Trumpet & trombone, piano	15	Approx. 100	2
2						15		
3						15		
4						15		
5	June 26 (mon)	Artistic outreach activity at a nursery school (3 performances)	Kita Nursery School (Chita, Taketoyo)	Nursery school children / Childcarers	Vocal (soprano), piano	20	Approx. 80	2
6						20		
7						20		
8	June 28 (wed)	Artistic outreach activity at a nursery school (4 performances)	Kita Nursery School (Chita, Taketoyo)	Nursery school children / Childcarers	Violin, piano	20	Approx. 100	2
9						20		
10						20		
11						20		
12	July 6 (thu)	Artistic outreach activity at a nursery school (4 performances)	Tobu Nursery School (Owariasahi)	Nursery school children / Childcarers	2 pianos	15	Approx. 100	2
13						15		
14						15		
15						15		
16	July 13 (thu)	Artistic outreach activity at a nursery school (4 performances)	Kita Nursery School (Chita, Taketoyo)	Nursery school children / Childcarers	2 pianos	20	Approx. 110	2
17						20		
18						20		
19						20		
20	Dec. 9 (sat)	Artistic outreach activity at a hospital	Fujita Health University Hospital (Toyoake)	Patients, doctors and medical staffs	2 pianos	50	Approx. 40	2
21	Dec. 12 (tue)	Artistic outreach activity at a psychiatric hospital	Toyota West Hospital (Toyota)	Patients, doctors and medical staffs	Vocal (baritone), piano	30	Approx. 40	2
22	Dec. 13 (wed)	Artistic outreach activity at a psychiatric hospital	Toyota West Hospital (Toyota)	Patients, doctors and medical staffs	Euphonium, piano	30	Approx. 40	2
23	Jan. 13 (sat)	Artistic outreach activity at a hospital	Fujita Health University Hospital (Toyoake)	Patients, doctors and medical staffs	Violin, piano	45	Approx. 40	3
24		Artistic outreach activity at a hospital	Fujita Health University Hospital (Toyoake)	Patients, doctors and medical staffs	Vocals (soprano, baritone), piano	40	Approx. 40	3
25	Jan. 16 (tue)	Artistic outreach activity at a psychiatric hospital	Toyota West Hospital (Toyota)	Patients, doctors and medical staffs	Vocals (soprano, baritone), piano	60	Approx. 40	1
26	Jan. 27 (sat)	Artistic outreach activity at a hospital	Fujita Health University Hospital (Toyoake)	Patients, doctors and medical staffs	2 trombones, piano	40	Approx. 40	1
合計							Approx. 660	

* As of February 20, 2024

[Note 1] The number of staff members includes only those involved in the Artistic Outreach in Hospitals Project and does not include those working at the nursery schools and medical institutions.

愛知県立芸術大学「病院アウトリーチプロジェクト」

2023 年度報告書

2024年 3 月 31 日発行

編集・発行 愛知県立芸術大学「病院アウトリーチプロジェクト」委員会

〒480-1194

愛知県長久手市岩作三ヶ峯 1-114

愛知県立芸術大学 安原研究室

TEL: 0561-76-2851 FAX:0561-62-0083

E-mail: outreach@mail.aichi-fam-u.ac.jp

印刷 株式会社ウエルオン

〒464-0858

名古屋市千種区千種 2 丁目 1 番 28 号

TEL: 052-732-2227 FAX: 052-733-3178

URL: <http://www.well-on.co.jp/>